平成29年度　学校評価総括表　　伊丹市立有岡小学校

教育目標	心身ともに　たくましく　すこやかに　生きる子を育む
重点目標	・たくましく健やかに生きる子の育成　・確かな学力の育成　・子ども理解に基づく教育の推進　・家庭や地域から信頼される有岡ならではの教育の創造

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と,授業改善	・基礎的,基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・国語の読解プリントを朝のチャレンジタイムに週3回実施する。 ・校内研修として,学年別に生活科・理科を中心に授業を公開する。講師の先生に指導助言を受け,研究を深める。 ・校内ミニ研修を実施し,授業力の向上に役立てる。 ・5.6年の算数で,新学習システムを実施する。 ・算数では、授業の初めに各学年音読計算を取り入れ、計算力の向上に役立てる。 ・中、高学年を中心に,1週間程度夏休みに学習会（ｻﾏｰｽｸｰﾙ）を行う。 ・PTAの学力委員会と連携し，放課後,児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年度末の読解力テストの正答率が80％以上になるようにする。 ・年間を通じて,事前研究会,事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・授業研究会とは別に、年間3回校内ミニ研修会を実施する。 ・算数の少人数指導を実施し,算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が90％以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて,「先生は,教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90％以上になる。 ・水曜広場を月１回以上開催する。土曜学習を月に1回以上開催する。	A	・成果として、年度末の読解力テストの正答率が平均80％以上に達した。 ・チャレンジタイムは朝の会と時間帯が同じなので確保しにくい。 ・年間を通じて,事前研究会を3回,事後研究会を6回実施し、員全体で研究を深めていった。授業力の向上と授業改善に成果が見られた。 ・授業研究会とは、別に校内ミニ研修会や自主研修会を実施した。各種研修会について職員の82％が授業に生かせていると評価した。 ・算数の少人数指導を実施し、きめこまやかな指導ができた結果、算数の学力を向上させた。 ・成果として、児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が99％で、目標を達成している。また「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合も、96％で、目標を達成している。 ・保護者も先生はわかりやすい授業に務めていると99％が評価している。 ・振り返りと両方行うのには時間が足りないこともあり、算数の音読計算の実施にはばらつきがある。	・引き続き、週3回朝のチャレンジタイムに読解プリントや視写プリント実施していくことで、各教科の基礎学力となる読解力を高める。短い時間で確実に行うことができるような教材を工夫する。 ・校内ミニ研修会の実施については、会議等の時間短縮や会議の精選等で実施する時間を確保し回数を増やす。 ・算数の少人数指導の改善策としては、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・本校の研究全般にわたって、学校全体で協力しあう姿勢を維持し、研究意識を高める。 ・水曜広場や土曜学習の回数を増加や内容の充実を図る。 ・学力向上プランの具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の音読計算を引き続き実施していく。	・子どもたちの実態に即して、わかりやすい授業が展開され、子どもたちに必要な力がつくように先生方が努力されている成果が出ていると考えられる。 ・土曜学習会も内容が充実してきた。高校生ボランテイアの参画も、子どもたちに良い影響があると思う。 ・中学校への円滑なつながりのため、授業を進めるスピードも、発達段階に応じた工夫も必要である。
	思考力,判断力,表現力の育成	・思考力,判断力,表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の向上を図る。	・業間休みや夏休み等も図書室を開放したり,各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等,図書環境を充実させる。 ・理科で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。（自分の考えを持つための問題解決学習のあり方） ・各教科で言語力を高めるために,記述・説明する活動を充実させる。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・読書カードに読書した書名を記入させ,読書を推進する。 ・1ケ月の読書目標数を11冊を達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ,観察・実験の,結果を整理し,考察する活動を大切にする。（ノートや学習カードの活用） ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。	B	・成果として、1ケ月の読書目標数11冊は達成できた。（図書の時間の2冊×4週＋学級や家庭学習での読書数）校内で取り組んでいる読書マラソンや読み聞かせやボランティア等の活用によって、成果が上がっていた。 ・教科での活動を、多様な方法で表現させることで、気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では自分の考えを持つために、問題解決学習を重視して取り組んできた結果、進んで課題解決の方法を自分で考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・観察・記録、整理・考察、説明、意思決定等の言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業においてユニバーサルデザイン化を進めた。	・図書の課題と改善策は、中学年から読み応えのある本を読んでいる児童が増えてきているため、児童の読書目標の成果を単に冊数だけでは、はかれないので、他の項目で成果をはかる工夫を協議検討していく。 ・主体的で対話的で深い学びに向けて、各教科の学習内容で、具体的な指導計画をしっかりと立案して授業に臨む。学習時間の中で思考したり、表現したりする時間を十分確保する。 ・学力向上プランを具体化していく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れる。	・学校司書が読書ボランテイアと協力し、新しい図書館を活用した取組で読書量が増えている。家庭での読書習慣がをさらに充実できるように、保護者との連携を強化したい。 ・最近は、新聞を読む子どもが減っている。読解力アップや漢字学習等に新聞の活用も効果的である。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・対話型の授業の実践(ペア・グループ・全体）を行う。 ・各教科で電子黒板や実物投影機等を活用して学習意欲を向上させ、学習内容の習熟度を高める。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・ICTを月60回以上活用する。 ・予習復習の習慣をつける。	A	・成果として、ICTを月平均650回以上活用できた。 ・アクティブラーンニングを授業に取り入れることにより、子ども一人一人が実感を持って理解を深め、学習意欲につながっていった。 ・保護者と連携し、家庭で、繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、改善が必要である。 ・家庭での読書時間を確保する。	・授業の中での効果的なICTの活用法を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにしていくための研修を行う。 ・自主学習ノートを取り入れ、学校や家庭での自主的な学習時間の確保を図る。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し意欲の持続化につなげる。 ・アイパッド等機器の活用を行う。 ・さらにアクティブラーンニングに取り組んでいく。 ・家庭学習プリント配信システムの利用を図る。	・体験活動を通じて、お店の人や地域の方々の気持ちが分かった児童も多く、貴重な学びの機会となっている。 ・校内を歩いてみて、挨拶ができる子どもが増えたように感じる。 ・ICT機器の活用が増加し、子どもたちの学習意欲にもつながっている。子どもたちは、今後、情報化社会で生き抜くことになるので、内容も充実させていただきたい。
豊かな心・健やかな体	いじめ、不登校への対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切にする児童を育てる。	・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には,家庭訪問を行うとともに,保健室登校等児童の負担にならないような登校を選択していく。 ・毎月生徒指導研修会（いじめ等）を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どもについての報告を行い、共通理解を図る	・いじめアンケートの結果や教職員がいじめと認識した事案について、早期発見、早期解決する。 ・毎月1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数が0人になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85％以上になる。	B	・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が92％になり、目標を上回った。 ・欠席が30日を超える児童は4人だった。 ・問題行動報告会は、月1回スクールカウンセラーを交えて、職員会議前に行い、共通理解した。 ・生活指導部会を毎月行った。	・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・引き続き、欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にしたり、職員間で情報を共有化したりして、複数の職員で対応していく学校ぐるみの組織的な協力体制をさらに構築する。また、関係機関と連携を行う。 ・保護者がより学校への相談がしやすくなるような体制作りに取り組む。	・多くの子どもは、楽しく登校できているようだが、不登校児童0を目指して、学校教育目標にある「心身ともにたくましく」育つように、学校全体でさらに取組を進めてほしい。 ・いじめの対応は、学校と保護者が連携して取り組む必要がある。 ・学校や家庭で頑張りを認めてもらっていると実感している子どもは多くない。自尊感情や自己肯定感をさらに醸成できるように、子どもたちの心を育んでほしい。
	体力の向上		・冬場の縄跳び運動や,外遊びを奨励したりする。 ・冒険教育やボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体感させる。 ・放課後運動場を開放し　体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・体力アッププランを作成する。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボールを配布する。	・冒険教育を月200回目標を達成する。 ・年間を通じて,児童主催の委員会を中心に全校ドッジボール大会等を入れる。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・体力アッププランの実施	B	・冒険教育を体育の準備運動や体育のカリキュラムに組み入れ、月平均200回以上を達成した。 ・児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、鬼ごっこを行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につなげていった。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使ったり遊具を使ったりしてよく遊んでいた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に実施した。	・冒険教育やサーキットトレーニング、持久走等のさらなるプログラム開発することで、児童にとって楽しく、魅力あるものにし、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・児童主催の委員会活動で、楽しんで体を動かす活動を組み込んでいく。 ・体力向上プランを考えるなど、学校全体で取り組む。	・児童の実態に合わせて、体育授業で取り組めている。連合体育大会のリレーで1番になるなど、成果も表れてきている。 ・休み時間の委員会活動にも、工夫されていることもよくわかる。 ・課題である持久走やボール投げなどは、スポーツクラブ21でも、今後も重点的に取り組んでいきたい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・学校だよりを月１回以上発行し　学校情報を保護者に発信する。 ・,学校ホームページを月1回以上更新し,学校情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・有岡小学校区まちづくり協議会、すこやかネットに参加する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90％以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90％以上となる。 ・PTAと連携し,水曜広場や土曜学習を月1回以上開催する。	A	・学校便りを月1回発行した。 ・ホームページを月に9回更新した。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が100％になり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が99％になり、目標を上回った。 ・PTAとの連携は、放課後学習を水曜日に月1回行った。土曜学習も月1回行った。 ・地域や保護者等の各機関の協力を得て、様々な生活のきまり等に対し、組織的な指導ができた。	・学校便りに詳しく月の行事を載せていく。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・教職員や地域の人等が共通認識のもとに一貫した指導を行うことができるように協議検討していく。 ・学校だよりに月の行事等をさらに詳しく載せ、教育活動内容を詳しく保護者に発信していく。 ・学校評価を学校評議員会議で再確認し、実践していく。 ・今後もPTAと連携し水曜広場や土曜学習をさらに進めていく。 ・地域の人材のより積極的な活用を図る。 ・スポーツ21への参加を呼びかける。 ・指導計画をホームページに載せてより詳しく学校の様子を発信する。	・校門の掲示板に貼っている学校の取組ポスターは、大変わかりやすい。時期に応じて内容も変化し、学校からのメッセージも感じられる。 ・PTAや関係者などと更に連携して広報すると、保護者の意識も向上する。 ・今後も地域に開かれ、地域と参画する学校として、情報を積極的に発信してほしい。
幼・小・中連携	校種間の交流	・校種間の連携を深め情報交換等を行う。	・幼・小の給食交流・行事交流・遊び交流 ・幼少連携委員会・PTA学力向上委員会との連携 ・小中連携委員会・中学校夏季合同研修 ・各校種間の出前授業の実施 ・校内研修会への幼稚園教諭の参加	・幼小連絡委員会を月１度開催する。 ・中学校と話し合いを持つ。 ・ありおか幼稚園には,学期に1回以上出前授業を行う。 ・中学校の出前授業を年１回行う。 ・幼小各校園の研究会に参加する。 ・幼小連携から接続へ	A	・低学年児童を中心に幼稚園児や保育園児と交流したり、教員が幼稚園に出前授業をしたりするなど、連携を深めることができた。中学校とは随時話し合いを持ち、合同研究会にも積極的に参加した。 ・中学校は、北と南に分かれており、同じよう連携するのは難しかった。	・幼小中の話し合い時間を確保し、お互いの研究の中にも位置づけていく。 ・中学校は、北と南に分かれており連携が難しい面があるが、児童が小学校生活から中学校生活へにスムーズに移行できるようにそれぞれ連絡を密にしていく。	・ありおか幼稚園に加えて、校区内の保育所の子どもたちが、学校見学ができたことは意義が大きい。今後も、校区内の就学前教育の充実を目指して、取り組んでいただきたい。

学校関係者評価総括

・保護者から高い評価を受けているので、今後も継続できるように、願いを一層受け止めて改善も加える。
・授業や行事等、工夫ある教育活動で、子どもたちが意欲的になっている。保護者や関係者とも児童の実態を共有し、取り組んでほしい。
・不登校傾向の児童に対して他機関とも連携して取り組んでいるが、課題もある。全ての児童の自尊感情を高められるように、大人（教師・保護者・地域）からほめてもらえるような体験活動を積み重ねたい。
・体力向上では、低学年から持久走やボール投げなど、計画的に取り入れると良い。

次年度に向けた重点的な改善点

・「学校運営協議会」が設置され、学力向上・体力向上・最高の教育環境への整備などについて、地域と一体となって推進する。PTA組織も連携できるように改編する。
　固いイメージもあるので、地域への周知の際には、工夫をする。また、ボランテイアは、できることをできる範囲で行いながら、次の人材を探していく。
・子どもたちの自尊感情を熟成するため、キャリア教育の視点により、地域を舞台にした「職場体験」なども進める。
・子どもたちで深め合える力を育成するために、各学年で身につけたい力を明確にした授業に、系統的に取り組んでいく。
・家庭や関係機関と連携し組織的な対応により不登校児童0に向けた取組を行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った